



「足でつかむ夢—一手のない
僕が教師になるまで」

小島裕治 (著)
ブックマン社
1238円 (税別)

先輩経理ウーマンが
褒める
お気に入りの

この1冊
オススメ

Book

本書の冒頭には中学校での先生と生徒の写真が掲載されています。生徒の前で教科書を読み上げる先生の姿。生徒たちとの給食風景。日常のありきたりな学校生活のひとつまです。それは先生の両手両腕がないところ。なので写真の先生は足の指でチョークを挟んで黒板に文字を書き、足の指に挟んだスプーンで給食を食べています。本書の執筆者である小島裕治氏は中学の英語教師です。4歳の時に交通事故で両手両腕を失います。そして、保育園・小学校・中学校と進学する中で差別を受け、両手のないことを揶揄され、辛い日々を過ごします。小学校の下校時に「うわーっ、手なし人間だああ」と言われて、家族に心配を掛けたくない、布団にもぐって息を殺して泣いたこともあると言います。でも本書では暗い話ばかりが紹介

されているわけでもありません。児童会の副会長に立候補したり、水泳に挑戦して背泳ぎまでマスターしたり…。なんて強い人なんだろうと感心します。

本書の後半ではその小島氏が大学に進学し、教師になるという夢を持ち、それを叶えるまでの道程が描かれています。もちろん簡単に夢が叶ったわけではありませんが、両手両腕がないというハンデが壁となり、心療内科を受診するほどの苦悩の日々が続きます。彼がどのような苦悩の日々が続きます。彼がどのような苦悩の日々が続き、最終的には「教師になる」という自分の夢を掴んだのかは本書を読んで欲しいのですが、小島氏は教師になった一年目の最後の授業で生徒たちにこう語りかけます。「みんなの両手は人を傷つけるためじゃなく、困っている人のため、そして自分の夢を叶えるために使って欲しい」。人生の勇氣をもらえる一冊です。

(朝美)